平成30年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	ヒューマンアート(Human Art)			授業コード	A030751
担当教員名	安田 幸夫、島岡 成治、山本 義史、清水 孝子、杉浦 嘉雄、近藤 正一、星芝 貴行、西村 謙司、坂井 美穂、藪内 聰和、足立 元、坪倉 篤志			科目ナンバリングコード	A20403
配当学年	1	開講期	後期 (水曜日3時限)		
必修・選択区分	選択	単位数	2		
履修上の注意または履修条件	ありません				
受講心得	※講義はオムニバス形式で行われます。ゲストの方が担当する場合もあります。マナーを守って遅刻・欠席はしないように心がけてください。 ※授業開始前に携帯電話の電源を切ってカバンの中に入れておいてください。メールやインターネット等、IT機器類の使用は禁止します。使用している場合には即刻退室を命じます。なお、机の上や棚に置いている場合も、使用中とみなします。 ※教室内は飲食禁止です。授業が始まる前に室外で処分するか、カバンの中にしまっておいてください。 ※授業開始時刻には指定された場所に着席してください。 ※やむを得ず(交通機関の遅れ、事故、傷病等)遅れた場合は15分まで遅刻を認めます。他の受講生に迷惑をかけないよう、後ろの方に静かに着席してください。 ※15分以上遅刻しても入室は認めますが、欠席扱いとします。その場合はレジュメのみ配布しますので、後ろの方に静かに着席してください。 ※講義で私語を繰り返した場合は、そのグループ全員に退室を命じます。その場合は欠席扱いとしますので、お互いに気をつけてください。ただし、実習の場合はその限りではありません。しかし、その場合も節度ある会話にとどめてください。 ※退室命令を3回受けた場合は、残念ですが最終レポート提出資格をはく奪します。 ※レポートの文字は丁寧に書いてください。乱暴に書かれ、読み取れない文字を含む場合は採点しません。				
教科書	使用しません。				
参考文献及び指定図書	各講義で担当教員から提示されます。				
関連科目	人間力概論、コミュニケーション演習、大分学・大分楽				
授業の目的	生活空間に目をやり、そこにある美を愛しむゆとりをもつことは豊かな生活を創造することに通じます。そして、あらゆる美を愛しむための知識を獲得することは、豊かな人間性(人間力)を育むためにもきわめて重要です。この講義を通して、生活の中にあるさまざまな美に気づき、心ときめかせるようになって欲しいものです。				
授業の概要	美しいものを美しいと感じ取るための手法を学び、美を愛でることのできるバランスのよい思考と感性の育成を目指します。さらに、日本また大分の文化に根ざした様々な芸術や諸外国の芸術作品に触れる機会を提供し、そこから大分の文化を理解してもらいます。 授業ごとに小論文を作成してもらいますが、受講者数が多いため添削・返却はしません。これの評価は下の「〇配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安」を見て下さい。 なお、前期中に示した授業内容や実施日(順番)を変更することがあります。受講登録の際にはシラバスを再確認しておいてください。				
〇授業計画					
学修内容(敬称略)				学修課題(予習・復習)	
第 1 週 : ガイダンス《坂井美穂・安田幸夫》 シラバスにもとづいて講義の概要を解説します。第一回目から小論文を作成してもらいますので、筆記用具は必ず持参してください。				実施日:10/03 シラバス全体に目を通し、講義内容の全体像を把握しておいて下さい。(予習:30分程度)	
第 2 週 : 人間と芸術《西村謙司》				実施日:10/10	

ヒューマン・アート。すなわち、人間と芸術の関わりについて解説します。＜ものづくり＞に関わる者の立場から、技術と芸術の間に着眼し、人間に相応しい＜ものづくり＞のあり方を探求します。	授業内容に関する図書やWebページ、もしくは特に紹介した参考文献を読んでください。また、芸術との係わりについて指示された内容でレポートの作成を行ってください（復習：1時間程度）
第 3 週 ：「いろのいろいろ」（カラーの基礎知識）《近藤正一》 色と光と知覚との関係、色の表現の仕方と色彩調和の方法について解説します。適切な色彩を正確に伝達するための基礎知識を学ぶことにより、表色系の意味を理解し、色彩調和に関する基礎的な知識を身につけます。	**実施日：10/17** 授業内容に関する図書やWebページ、もしくは特に紹介した参考文献を読んでください。また、色について指示された内容のレポートの作成を行ってください（復習：1時間程度）
第 4 週 ：「いろのいろいろ」（カラーの基礎知識）《近藤正一》 生活空間には、ファッション、商品、都市景観などあらゆる分野で色が利用されています。それらのなかでも、とりわけ環境色彩について着目し、正しい知識にもとづいて表現された生活空間がどのようなものであるかを解説します。	**実施日：10/24** 授業内容に関する図書やWebページ、もしくは特に紹介した参考文献を読んでください。また、ものと色について指示された内容でレポートの作成を行ってください（復習：1時間程度）
第 5 週 ： 色彩とデザイン －配色とテイストから－《足立　元》 デザインと色彩は密接な関係を持っており、デザイナーは色彩を計画的に用いてデザインの意図をより的確に表現しようとします。実践的な配色法から、イメージを伝達する際に色彩が果たす役割を学びます。	**実施日：10/31** 授業内容に関する図書やWebページ、もしくは特に紹介した参考文献を読んでください。また、デザインと色について指示された内容でレポートの作成を行ってください（復習：1時間程度）
第 6 週 ： サウンドデザインと芸術《星芝貴行》 音の発生、音の伝播、音響感覚、音楽、騒音 等々、音に関するあらゆる現象から、音楽における音創りや映像との融合など芸術分野まで踏み込んで、興味の持てる範囲でお話をします。	**実施日：11/07** 授業内容に関する図書やWebページ、もしくは特に紹介した参考文献を読んでください。また、音と音楽について指示された内容でレポートの作成を行ってください（復習：1時間程度）
第 7 週 ： 民族・文化で異なる美とは？《清水孝子》 文化を形作っている基本には、それぞれの民族の美的感覚があり、その美的感覚の基本になっているのは、私たちの無意識の世界に自然に根付いている環境との関わりがあると考えられます。四季に恵まれた日本には、日本人独特の美意識があります。民族や文化の違いによって異なってくる「美」について、事例をもとに考えて行きたいと思います。	**実施日：11/14** 授業内容に関する図書やWebページ、もしくは特に紹介した参考文献を読んでください。また、指示された内容のレポートの作成を行ってください（復習：1時間程度）
第 8 週 ： 哲学における美しさ《藪内聰和》 世界には、多くの美しいものがあります。美しいものを美しいと認識する判断基準は、おおむね人間に共通であるといえます。それではなぜあるものを美しいといえるのでしょうか。そして、美しさを人間は共有できるのでしょうか。これについて、哲学者の学説を手がかりに考えてみましょう。	**実施日：11/21** 授業内容に関する図書やWebページ、もしくは特に紹介した参考文献を読んでください。また、哲学と芸術について指示された内容でレポートの作成を行ってください（復習：1時間程度）
第 9 週 ： 被服行動と身体装飾の心理学《山本義史》	**実施日：11/28**

被服や身体装飾は、単に自然から身を守るという身体保護・実用という役割だけでなく、自己表現や他者との相互作用の基礎過程におおける心理的なものでもあります。慎みや身体装飾を通して、人間のアートや人間性を見ていきます。	授業内容に関する図書やWebページ、もしくは特に紹介した参考文献を読んでください。また、身体装飾と心理学について指示された内容でレポートの作成を行ってください（復習：1時間程度）
第10週：「映像作品の芸術性」《小島 康史》 映像作品が生みだされる一番大きな要因は、他の芸術と同様に作家の眼差しによるところが大きいです。映像作家はどのようなテーマを持ち、思考を巡らすのか。作り手と観客の間にあるものを演出という観点から、作品のシーンを題材に考察します。	**実施日：12/05** 授業内容に関する図書やWebページ、もしくは特に紹介した参考文献を読んでください。また、映像と芸術について指示された内容でレポートの作成を行ってください（復習：1時間程度）
第11週：“自然からのメッセージ”を大切にする美しい心 ～宮沢賢治の自然観を題材にして～《杉浦嘉雄》 童話作家として有名な宮沢賢治は、優れた理性の持ち主であると同時に優れた感性の持ち主でもありました。残された作品からも分かるように、賢治は理性と感性を介して周囲の自然や環境から、“自然からのメッセージ”を受け取り、それを文章に転写して「芸術」まで高めたのです。作品・個人史・自然観を通して、宮沢賢治の「美しい心の世界」を探求していきます。	**実施日：12/12** 授業内容に関する図書やWebページ、もしくは特に紹介した参考文献を読んでください。また、自然と文学について指示された内容でレポートの作成を行ってください（復習：1時間程度）
第12週： 工芸における生活と美《島岡成治》 自然の素材である竹を使って、生活のための道具をつくる、人間の技（human art）としての竹工芸とその美について考えます。大分県は、別府を中心として竹工芸のメッカの一つであり、かつて生野祥雲斎という人間国宝を生み出した場所であることにもふれます。	**実施日：12/19** 授業内容に関する図書やWebページ、もしくは特に紹介した参考文献を読んでください。また、工芸と芸術について指示された内容でレポートの作成を行ってください（復習：1時間程度）
第13週： 健康美を保つための食生活《坂井美穂》 『食べる』ということは、生きていく上での基本的習慣であり、私たちの体は『食べたもの』によってつくられています。健康的に生活するうえで、希薄になりがちな『食』を見直してみましょう。	**実施日：01/09** 授業内容に関する図書やWebページ、もしくは特に紹介した参考文献を読んでください。また、健康美と食について指示された内容でレポートの作成を行ってください（復習：1時間程度）
第14週： ヒューマンコンピュータインタラクションとアート《坪倉篤志》 Webを含むインタラクティブコンテンツは年々変化しています。今回は、ヒューマンコンピュータインタラクションの観点で、人間と機械とのインタラクションの現在と、今後の未来について、実例を含めて解説します。	**実施日：01/16** 授業内容に関する図書やWebページ、もしくは特に紹介した参考文献を読んでください。また、仮想現実における芸術について指示された内容でレポートの作成を行ってください（復習：1時間程度）
第15週：「振り返り」と「小論文」 講義の振り返りを行うために、全体を通じての小論文を作成してもらいます。 なお、正式な期末試験は実施しません。	**実施日：01/23** 授業中に配布した資料を読み直して、「気づき」や「学び」を思い起こしておいてください。（予習：2時間程度）
第16週：	**実施日：02/06**

予備日		
授業の運営方法	(1)授業の形式	「講義形式」
	(2)複数担当の場合の方式	「オムニバス方式」
	(3)アクティブ・ラーニング	
地域志向科目	カテゴリー Ⅲ:地域における課題解決に必要な知識を修得する科目	
備考	授業ごとにレポートを作成・提出します。15回目に振り返りの小論文を作成します。 授業外で実施する「別指定」の芸術鑑賞はレポートの提出で加算点を与えます。レポートに鑑賞券の半券を張り付けて提出してください。詳細はガイダンスでお知らせします。	

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	理由のない遅刻や欠席がなく、取り組む姿勢が適正である:30点
【知識・理解】	各講義の「主題」を正確に把握できる:5点
【技能・表現・コミュニケーション】	講義の内容に対する意見・感想が明確に記述できる:5点 レポートが丁寧に読みやすく書ける:5点
【思考・判断・創造】	レポートが個性的な内容である:5点 講義内容を文化・芸術とのかかわりまで展開できる:5点

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等 (テスト)	レポート・作品等 (提出物)	発表・その他 (無形成果)	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。			30点	
【知識・理解】 ※「専門能力〈知識の獲得〉」を含む。		20点		
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力〈知識の活用〉」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。		25点		
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。		25点		

(「人間力」について)
※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安

レポート・作品等 （提出物）	個性的な内容か、丁寧で読み易いかを見定めた後つぎの判定をします。 各回ごとのレポートは次の基準で採点し，その平均点の15倍を評価点とします。 講義内容（もしくは指示事項）に関する意見・感想が丁寧な字で十分に記述されている：3点 講義内容（もしくは指示事項）に関する意見・感想が判読可能な文字でおおよそ記述されている：2点 講義内容（もしくは指示事項）に関する意見・感想がほとんど記述されていない場合や文字数が不足している場合、さらに文字が読み取り難い場合：1点 最終レポートは25点満点で「単位を修得するために達成すべき到達目標」の下の3項目に基づき評価します。なお、配点は細目ごとに5点とします。 成績は次の基準で合計点を評価に読み換えます。 S評価：90点以上 A評価：80点以上90点未満 B評価：70点以上80点未満 C評価：60点以上70点未満 E評価：60点未満
発表・その他 （無形成果）	出席点を30点満点とし、欠席1回ごとに6点を減じます。なお、公欠や正当な理由のある場合は申し出てください。その状況に応じて対処します。